

第4号議案

2020年度に小学校において使用する教科用図書の採択の適正を図るため、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第8条に定める採択基準と選定に必要な資料について

2020年度に小学校において使用する教科用図書の採択の適正を図るため、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第8条に定める採択基準と選定に必要な資料について、次のとおり定める。

令和元年5月14日

滋賀県教育委員会

2020年度に小学校において使用する教科用図書の採択基準と選定に必要な資料について

1 採択基準について

- (1) 義務教育諸学校で使用する教科用図書（以下「教科書」という。）の採択は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」の規定に基づいて適正に実施すること。
- (2) 採択にあたっては、平成31年3月29日付け30文科初第1853号「教科書採択における公正確保の徹底等について（通知）」、平成31年3月29日付け30文科初第1854号「教科書採択の公正確保について（通知）」および平成31年3月29日付け30初教科第33号「2020年度（新元号2年度）使用教科書の採択事務処理について（通知）」に基づき、専門的な教科書研究の充実を図るとともに、適正かつ公正な採択および開かれた採択を確保すること。
- (3) 調査研究にあたっては、次の観点について、教科（種目）ごとに行うこと。
 - A 知識及び技能
 - B 思考力・判断力・表現力等
 - C 学びに向かう力・人間性等
- (4) 2020年度に小学校において使用する教科書の採択にあたっては、県教育委員会の示す「選定に必要な資料」を十分活用すること。
- (5) 特別支援学級において使用する教科書の採択にあたっては、以下のとおりとすること。
 - ① 2020年度に特別支援学級において使用する教科書の採択にあたっては、県教育委員会の示す「選定に必要な資料」を十分活用すること。
 - ② 児童の障害の種別および程度を十分考慮し、採択すること。

2 選定に必要な資料について

- (1) 通常の学級については、次のとおりとすること。
 - ア「小学校教科用図書選定に必要な資料（2019年度作成）－小学校－」
- (2) 特別支援学級においては、選定に必要な資料に、次の資料を加えること。
 - イ「小学校特別支援学級教科用図書選定に必要な資料（2019年度作成）－小学校特別支援学級－」
 - ウ「平成32年（新元号2年）度用一般図書一覧」（文部科学省）

小学校教科用図書選定に必要な資料（2019年度作成）

調査研究観点

各種目（教科）の観点の内容

小学校

滋賀県教育委員会

2019年度小学校教科用図書の調査研究における観点等について

■学習指導要領各教科（種目）の目標にかかわる観点について

新学習指導要領では、前文において、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められると示されている。また、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力として、ア「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識及び技能」の習得）」、イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」が三つの柱として整理されるとともに、新学習指導要領では全ての教科（種目）においてそれぞれ示されている。

また、本県においては、第3期滋賀県教育振興基本計画（2019年度～2023年度）を新たに策定し、基本目標である、「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」を受け、滋賀に生きる子どもたちの確かな学力を育むため、新学習指導要領の求める教育の理念に基づき、一人ひとりの基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、文章や対話などから「読み解く力」を社会で生きていくために必要な力と位置付け、身に付けた知識・技能を活用して解決する力を育む教育の推進を図るところである。このことはまさに新学習指導要領で求められている資質・能力の育成につながるものである。

よって2019年度教科用図書の調査研究にあたっては、本県の教育の施策や学習指導要領の各教科・分野の「目標」などを踏まえ、確かな学力を育む基盤とするために以下の観点を各教科（種目）で設定し、各教科書の内容について総括的に調査研究をするものとする。

調査を行う観点

観点A「知識及び技能」

観点B「思考力・判断力・表現力等」

観点C「学びに向かう力・人間性等」

◇観点A「知識及び技能」について

資質・能力の育成は、子どもが「何を理解しているか、何ができるか」に関わる知識及び技能の質や量に支えられており、発達の段階に応じて確実に習得できるような教材や学習活動が必要である。

このことから調査については観点Aとし、基礎的・基本的な概念や知識・技能の習得に係る教材や学習活動を調査することとした。

◇観点B「思考力・判断力・表現力等」について

「思考力、判断力、表現力等」とは、「知識及び技能」を活用して課題を解決するために必要な力であり、この力を育成するために、物事の中から問題を見だし、解決方法を探して計画を立て、実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく活動や、情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したりする活動等が必要である。

このことから調査については観点Bとし、各教科の指導の中で、身に付けた知識・技能を基にしながら情報を適切に選択し活用する学習内容や、問題発見・解決的な学習内容、相手の心情を読み解きながら考えたことを説明したり自分の意見をまとめ発表したりする学習内容を調査することとした。

◇観点C「学びに向かう力・人間性等」について

子ども一人ひとりが社会と積極的に関わり、より良い人生を送るために、社会や世界との関わりの中なかで、学んだ事の意義を実感できるような、子どもの学習意欲を喚起する学習活動が必要である。また、各教科の特性に応じた態度や心情を育むことができる学習活動が必要である。

このことから調査については観点Cとし、授業や家庭学習を通じながら、教科への意欲・関心を高めたり、学びに向かう姿勢を育てることができたりする内容を調査することとした。

観点の内容

国語科 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な言語文化や言葉の特徴やきまり、使い方に関する内容を取り上げている箇所数 ・情報の扱い方に関する内容を取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の言語活動の中にある言葉の特徴やきまりなどに気付くことや、学習したことを日常の場面に生かすことを意識しながら学習できるように留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと・聞くことを学習課題として取り上げたり、学習活動を学習過程の中に示したりしている箇所数 ・書くことを学習課題として取り上げたり、学習活動を学習過程の中に示したりしている箇所数 ・読むことの力を高めるための文章の種類や内容について、文学的文章、説明的文章、詩・短歌・俳句等の数 	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと・聞くことを一体的にとらえ、説明、発表、対話、討論などの言語活動を通して、目的に応じて効果的に話をしたり、相手の意図を捉えながら聞いたりすることができる言語能力を意図的、計画的に育成する。 第1学年及び第2学年は年間35単位時間程度、第3学年及び第4学年は年間30単位時間程度、第5学年及び第6学年は年間25単位時間程度を配当する。 ・説明、記録、手紙、感想などを書くことや、意見発表のための文章や資料を作成するなどの言語活動を通して、相手や目的に応じ、条件に合わせて効果的な文章を書くことができる言語能力を意図的、計画的に育成する。 第1学年及び第2学年は年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年は年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年は年間55単位時間程度を配当する。 ・多様な文章を取り上げ、内容や要旨を捉えながら読む、調べるためによむ、音読や朗読をする活動を通して、目的に応じて文章の内容を的確に読みとることのできる言語能力を意図的、計画的に育成する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の言語活動例に関わる内容の数 ・目的に応じた読書への誘いを内容とする学習課題の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような言語活動を通して資質・能力を育成するか明確にする。 ・児童の読書意欲を高め、日常生活における読書活動につながるよう留意する。

調査方法

種目名【 国語 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な言語文化を取り上げている箇所数について調査を行う。 例) 昔話、俳句、短歌、古文、漢文等 ・言葉の特徴やきまり、使い方に関する内容を取り上げている箇所数について調査を行う。 例) 話し言葉と書き言葉、ローマ字、主語と述語、修飾語、敬体と常体、比喩、音読や朗読等 ・情報の扱い方に関する内容を取り上げている箇所数について調査を行う。 例) 関係、整理の仕方、手段等
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと・聞くことを学習課題として取り上げたり、学習活動を学習過程の中に示したりしている箇所数について調査を行う。 例) 感想を述べる、少人数で話し合う、調べたことを話す・聞く、グループや学級で話し合う、自分の考えを話す・聞く等 ・書くことを学習課題として取り上げたり、学習活動を学習過程の中に示したりしている箇所数について調査を行う。 例) 経験したことを書く、記録する、伝えたいことを書く、想像したことを書く、考えたことを書く等 ・読むことの力を高めるための文章の種類や内容について、調査を行う。 例) 文学的文章、説明的文章、詩・短歌・俳句等
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の言語活動例に関わる内容の数について調査を行う。 例) 他教科等の学習や学校の教育活動全体と関連させる活動 ・目的に応じた読書への誘いを内容とする学習課題の箇所数について調査を行う。 例) 本、新聞、雑誌、調べるための資料等

観点の内容

国語科書写 目標

- (1) 文字を正しく整えて書くことができる。
- (2) 硬筆を使用する書写の能力の基礎を養う。
- (3) 書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none">・点画の種類や字形、筆順の例示掲載数・姿勢や持ち方など書き方についての注意例の数	<ul style="list-style-type: none">・毛筆を使用する書写の指導が、毛筆書写の能力の育成で完結してしまわないように、毛筆と硬筆との関連的な指導を一層工夫するよう留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none">・手本となっている文字の数・手本に関わる例示の数	<ul style="list-style-type: none">・硬筆を使用する書写の指導は各学年で行い、必要に応じて、取り立てて指導したり、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項と関連付けたりするように留意する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none">・様々な用紙（ノート、模造紙、手紙、半紙、画仙紙など）への縦書き、横書き例や筆記具の紹介例の数	<ul style="list-style-type: none">・書写の学習で身に付けた資質・能力を、各教科の学習や生活の様々な場面で積極的に生かし、適切に書けるように留意する。

調査方法

種目名【 書写 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 知識・技能	<ul style="list-style-type: none">点画の種類や字形、筆順の例示を掲載している数について調査を行う。 (例) 横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点など姿勢や筆の持ち方など基本的な書き方についての注意の数について調査を行う。 (例) 始筆から送筆、終筆の止め、はね、払いまでを意識して丁寧に書くなどの記述
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none">硬筆、毛筆の手本の大小を問わず、手本数について調査を行う。手本を書く際の留意事項（文字の大きさや字間、筆づかいなど）を解説している箇所数について調査を行う。 (例) 形についての注意書き
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none">ノート、模造紙、手紙、半紙、画仙紙など様々な用紙に縦書きの例、横書きの例や紹介されている筆記具の数について調査を行う。 (例) ノートに書く、パンフレットを作る、手紙を書くといった具体的な活動の例示、硬筆で書くとよいか、毛筆で書くとよいか、情報機器の方が効果的かなどの記述

観点の内容

社会科 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けた社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や我が国の地理的環境、歴史や伝統文化、政治の動き、我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割について理解させるための教材・学習活動の箇所数 ・年表、地図、図、写真等の箇所数や資料の比較、意見の交流や記述を促そうとする箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や我が国の地理的環境、地域や我が国の歴史や伝統文化、現代社会の仕組みや働きを通して、社会生活についての総合的な理解を図るための知識を習得させることに留意する。 ・調査活動や諸資料の活用など手段を考えて問題解決に必要な社会的事象に関する情報を集める技能、集めた情報を読み取る技能、読み取った情報を問題解決に沿ってまとめる技能を児童が身に付けるよう指導することに留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土と産業の様子や特色を総合的に理解させることを取り扱っている教材・学習活動の箇所数 ・身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査に対する関心を高める内容を取り扱っている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて、学習したことを基に、社会への関わり方を選択・判断する資質・能力を目指すことに留意する。 ・考えたことや選択・判断したことを説明する力や、考えたことや選択・判断したことを基に議論する力と資料等を用いて作品にまとめたり図表に表したりする表現力を育成できるように留意する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について、主体的に学習の問題を理解し、行動につながる教材・学習活動の箇所数 ・自分たちの住んでいる社会生活を総合的に理解させるための教材・学習活動の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度が育成できるように留意する ・地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さを捉えるよう留意する。

調査方法

種目名【 社会 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の歴史や伝統文化、政治の動き、我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割について理解させるための教材・学習活動の箇所数について調査を行う。 例) 「歴史上の人物」と「代表的な文化遺産」が記載されている箇所および世界の国の人々の生活と国際交流の役割について記載されている箇所 ・年表、地図、図、写真等の箇所数や資料の比較、意見の交流や記述を促そうとする箇所数について調査を行う。 例) 年表、地図、図が記載されている箇所
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土と産業の様子や特色を総合的に理解させることを取り扱っている教材・学習活動の箇所数について調査を行う。 例) 領土に関する記載がされている箇所および日本の貿易や運輸についての記載されている箇所 ・身近な地域や市の様子の移り変わりなどの観察や調査に対する関心を高める内容を取り扱っている箇所数について調査を行う。 例) 見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方について具体的に記述されている箇所や、元号・少子高齢化・国際化について記載されている箇所
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について、主体的に学習の問題を理解し、行動につながる教材・学習活動の箇所数について調査を行う。 例) 自然災害に関して記載されている箇所および情報を生かして発展する産業について記載されている箇所 ・自分たちの住んでいる社会生活を総合的に理解させるための教材・学習活動の箇所数について調査を行う。 例) 地域の生産や販売に携わっている人々の働きについて記載されている箇所や滋賀県について記述されている箇所

観点の内容

社会科 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けた社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の活用方法を取り上げている箇所数・ページ数 ・見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方を取り上げている箇所数・ページ数 ・発達段階に応じた内容を取り上げている箇所数・ページ数 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科用図書「地図」は、地図を効果的に活用することともかかわって、社会的事象を適切に見たり考えたりする能力を育てるために必要な教材である。教科用図書「地図」は、地名の位置を確認することができるだけでなく、社会的事象の様子や関係、自然環境とのかかわりを調べることもできる。こうした活用の仕方を身に付けるとともに、教科用図書「地図」を日常的に活用し、教科用図書「地図」への親しみを持たせ、問題解決のために教材として効果的に活用する知識や技能を育てるように留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・基本図の数 (世界地図、日本地図、世界州別図、日本地域別図) ・資料図の数 (社会的事象の様子や関係、自然環境とのかかわり、その他) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて、学習したことを基に、社会への関わり方を選択・判断する資質・能力を目指すことに留意する。 ・考えたことや選択・判断したことを説明する力や、考えたことや選択・判断したことを基に議論する力と資料等を用いて作品にまとめたり図表に表したりする表現力を育成できるように留意する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末の統計資料の項目数・ページ数 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度が育成できるように留意する ・地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さを捉えるよう留意する。

調査方法

種目名【 地図 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の使い方等が記載されている箇所の調査を行う。 例) 地図の見方、地図記号の説明などが掲載されている箇所 ・地図の活用方法、見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方について、具体的に記述されている箇所の調査を行う。 例) 地図の活用方法などが掲載されている箇所 ・発達段階に応じた内容を取り上げている箇所数の調査を行う。 例) 3年生以上で活用する地図として、発達段階に応じた内容が掲載されている箇所
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地名や境界線、等高線、交通路等の基本的な地域の情報を掲載した地図を基本図とし、産業や自然等にかかわる資料情報を掲載した地図を資料図として数の調査を行う。 例) 基本図・資料図が掲載されている箇所 ・基本図を世界全図、日本全図、世界州別図、日本地域別図に分類し、箇所数について調査を行う。 例) 世界全図・日本地図・世界州別図・日本地域別図が掲載されている箇所 ・資料図を「社会的事象の様子や関係」、「自然環境とのかかわり」、「その他」に分類し、数の調査を行う。 例) 社会的事象・自然環境（自然災害や防災）について取り上げている資料図・写真・図が掲載されている箇所
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末の統計資料の項目数とページ数の調査を行う。 例) 統計資料として掲載されている項目

観点の内容

算数科 目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせる「例・例題」「問・問題」の箇所数 ・学習のまとめ、公式や性質として扱っている事項の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けるべき基礎的・基本的な内容の習得を重視するとともに、その背景にある概念や性質について理解を深めながら、概念や性質の理解に裏付けられた確かな知識及び技能を習得させることに留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力を身に付けさせる「例・例題」「問・問題」の箇所数 ・問題発見・解決する過程において、見通しをもち筋道を立てて考える内容を取り扱っている箇所数 ・具体物、図、言葉、式、表、グラフなどを用い、自分の考えを表現したり、説明したりする学習活動を取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決したり、物事を判断したり、推論を進めたりしていく過程において、見通しをもち筋道を立てて考えて、いろいろな性質や法則などを発見したり確かめたり、筋道を立てて説明したりする資質・能力の育成を目指すことに留意する。 ・考えたことを目的に応じて柔軟に表現することを通して、数学的な表現の必要性や働き、よさについて実感を伴って理解できるように留意する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の内容や方法などがもつよさを明らかにしていくような課題を取り扱っている箇所数 ・生活や学習の様々な場面で算数を活用する内容を取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形の知識及び技能に含まれるよさや、数学的な思考、判断、表現等に含まれるよさ等に気付かせ、有用性、簡潔性、一般性、正確性、能率性、発展性、美しさなどの様々な視点から算数の学習を捉えるように留意する。 ・算数で学んだことを日常生活や学習に活用できるようにし、活用を重視した創造的な学習展開を用意することに留意する。

調査方法

種目名【 算数 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせる「例・例題」「問・問題」の箇所数について調査を行う。 例) 「例・例題」の箇所および、適用問題の箇所 ・学習のまとめ、公式や性質として扱っている事項の箇所数について調査を行う。 例) 「()のある式では、()の中をひとまとまりとみて、先に計算します」「長方形の面積=たて×横」など、特だしで記載している箇所
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力を身に付けさせる「例・例題」「問・問題」の箇所数 例) 「例・例題」の箇所および、適用問題の箇所 ・問題発見・解決する過程において、見通しをもち筋道を立てて考える内容を取り扱っている箇所数について調査を行う。 例) 「24は20に近いから…」 「段の数と周りの長さには、どんな関係があるのかな。」 「どんなけががどこで多かったかを調べるには、どんな表に表せばいいかな」など、吹き出しなどで課題を明確にしたり、見通しをもたせたりする内容が記載されている箇所 ・具体物、図、言葉、式、表、グラフなどを用い、自分の考えを表現したり説明したりする学習活動を取り上げている箇所数について調査を行う。 例) 「～を説明しましょう。」 「～のわけを言いましょう。」 「～図や式に表しましょう。」 など、表現したり、説明したりする活動が記載している箇所
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の内容や方法などがもつよさを明らかにしていくような課題を取り扱っている箇所数について調査を行う。 例) 「折れ線グラフに表すとよいのはどれですか。」 「折れ線グラフは、変わり方の様子を見るのに便利です。」 「表をつくると、きまりを見つけやすくなるね。」 など、問題やまとめ、吹き出しなどでよさについて記載されている箇所 ・生活や学習の様々な場面で算数を活用する内容を取り上げている箇所数について調査を行う。 例) 「身の周りから、平行や垂直になっている面と面を見つけましょう。」 など、問題に設定されているものや、コラム等で算数を活用している場面を紹介している箇所

観点の内容

理科 目標

自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。
- (3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程を通してわかったことや学習のまとめが明示されている箇所数 ・観察、実験において、器具や機器などの使い方に関する記述の箇所数および事故防止等の安全に関する記述の箇所数 ・観察記録や実験結果を絵や文、表やグラフで表す学習活動を具体的に例示した箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が、問題解決の過程を通して、あらかじめもっている自然の事物・現象についてのイメージや素朴な概念などを、既習の内容や生活経験、観察、実験などの結果から導きだした結論と意味付けたり、関係付けたりして、より妥当性の高いものに更新していくことで、理解を深められるよう留意する。 ・観察、実験などに関する技能については、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱うとともに、観察、実験の過程やそこから得られた結果を適切に記録することが求められる。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の見だし、予想や仮説の発想、解決の方法の発想、より妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力の育成に関わる学習活動を具体的に例示した箇所数 ・問題解決の過程の中で、意見や考えを交流する学習活動を取り入れている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自然の事物・現象に親しむ中で興味・関心をもち、そこから問題を見だし、予想や仮説を基に観察、実験などを行い、結果を整理し、その結果を基に結論を導きだすといった問題解決の過程の中で、問題解決の力を育成するよう留意する。 ・第3学年では主に差異点や共通点を基に問題を見いだす、第4学年では主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想する、第5学年では主に予想や仮説を基に解決の方法を発想する、第6学年では主により妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力の育成を目指している。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の栽培や昆虫の飼育等について、具体的な方法を示した箇所数 ・実生活や実社会と関連付けたコラムや科学史に関する読み物の箇所数および発展的な内容の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の栽培や昆虫の飼育という体験活動を通して、生物を愛護しようとする態度が育まれ、植物の結実の過程や動物の発生や成長について観察したり、調べたりする中で、生命を尊重しようとする態度が育まれることに留意する。 ・意欲的に自然の事物・現象に関わろうとする態度、粘り強く問題解決しようとする態度、他者と関わりながら問題解決しようとする態度、学んだことを自然の事物・現象や日常生活に当てはめてみようとする態度等の育成を目指していくことが大切である。

調査方法

種目名【 理科 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程を通してわかったことや学習のまとめが明示されている箇所数について調査を行う。 ・観察、実験において、器具や機器などの使い方に関する記述の箇所数および事故防止等の安全に関する記述の箇所数について調査を行う。 例) 顕微鏡の使い方、電流計の使い方、メスシリンダーの使い方 等 保護メガネをつけて実験を行う、窓を開けて実験を行う 等 ・観察記録や実験結果を絵や文、表やグラフで表す学習活動を具体的に例示した箇所数について調査を行う。 例) 花のつくりを絵と文で表している 実験用てこがっすり合うときのきまりを表にまとめている 等
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の見だし、予想や仮説の発想、解決の方法の発想、より妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力の育成に関わる学習活動を具体的に例示した箇所数について調査を行う。 ・問題解決の過程の中で、意見や考えを交流する学習活動を取り入れている箇所数について調査を行う。 例) 予想を話し合ったり、結果からどのようなことが言えるのかについて話し合ったりする場面が設定されている 等
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の栽培や昆虫の飼育等について、具体的な方法を示した箇所数について調査を行う。 例) トンボやバッタの飼い方、種のまき方 等 ・実生活や実社会と関連付けたコラムや科学史に関する読み物の箇所数および発展的な内容の箇所数について調査を行う。 例) 日食や月食について、てんびんの歴史について、火山の熱の利用 等

観点の内容

生活科 目標

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科と各教科等との関連や、実生活（家庭・地域等）との関連を意識した学習活動をそれぞれ取り上げている箇所数 ・学習活動の展開に即して、生活上必要な習慣や技能に関する指導につながる記述の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動や体験を通して生まれた気付きが相互に関連付けられたり、既存の経験などと組み合わせられたりして、各教科等の学習や実生活の中で生きて働くものとなること。 ・思いや願いを実現する過程において、生活上必要な習慣や技能も活用されるものとして身に付けること。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・分析的に考える活動（見付ける、比べる、たとえば）や創造的に考える活動（試す、見通す、工夫する）をそれぞれ具体的に例示している箇所数 ・言葉、絵、動作、劇化、その他による表現活動をそれぞれ具体的に例示している箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや願いを実現する過程において、児童が自分自身や自分の生活について、見付ける、比べる、たとえばなどの学習活動により、分析的に考えること。また、試す、見通す、工夫するなどの学習活動により、創造的に考えること。 ・児童が、気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法によって、他者と伝え合ったり、振り返ったりすること。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が思いや願いをもち、見る・聞く・触れる・作る・探す・育てる・遊ぶなどして、対象に直接働きかけている具体的な児童の姿を例示している図や写真の数 ・振り返る活動を通して、自分の成長を自覚したり、次の課題（やってみたいこと）につながったりしている様子を例示している箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや願いの実現に向けて、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとすることを繰り返し、それが安定的に行われるような態度を養うことを目指す。 ・思いや願いを実現する過程において、自分自身の成長に気付くことや、活動の楽しさや満足感、成就感などの手応えを感じることができるよう留意する。

調査方法

種目名【 生活 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気付きが各教科等の学習や実生活の中で生きて働くものとなるように、生活科と「各教科等との関連」や、「実生活（家庭・地域等）」との関連を意識した発展的な学習活動を取り上げている箇所数について調査を行う。 例) 各教科等との関連記述「虫の体に関する記述（理科）」 実生活（家庭・地域）との関連記述「みんなのまちに伝わる遊びはあるかな」 ・学習活動の展開に即して、生活上必要な習慣や技能に関する指導につながる記述の箇所数について調査を行う。 例) 「何に気をつければいいのかな？（ルール・マナー等についての指導）」 「生き物図鑑（動物の世話の仕方に関する指導）」
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分析的に考える活動（見付ける、比べる、たとえる）や創造的に考える活動（試す、見通す、工夫する）をそれぞれ具体的に例示している箇所数について調査を行う。 例) 「どこが違うかな」→分析的に考える活動（比べる） 「輪ゴムを変えたらどうなるかな」→創造的に考える（試す） ・児童が気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化、その他による表現活動をそれぞれ具体的に例示している箇所数について調査を行う。 例) 探検カードの記載例→言葉、絵 発表の例→動作化、その他（歌・踊り）
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が思いや願いをもち、見る・聞く・触れる・作る・探す・育てる・遊ぶなどして、対象に直接働きかけている具体的な児童の姿を例示している図や写真の数について調査を行う。 例) 「どんな生きものをしてっているかな？（活動を引き出す発問）」⇒見る・探す・触れる ・振り返る活動を通して、自分の成長を自覚したり、次の課題（やってみたいこと）につながったりしている様子を例示している箇所数について調査を行う。 例) 「もっとほかの場所も調べたいです」→次の課題（やってみたいこと） 例) 「トマトのお世話をしっかりできるようになりました」→自分の成長の自覚

観点の内容

音楽科 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階（低＝リズム、中＝旋律、高＝音の重なりや和声）に適した学習活動が設定されている箇所数 ・表現の技能を高めるための記述の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付き、理解するとともに、音楽表現を楽しむために、または表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けさせるように留意する。 ・それぞれの学年における「技能」の習得に関する学習が質的に高まっていること。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の理解を高める工夫が見られる記述の箇所数 ・リズム、強弱、形式などの音楽を形づくっている要素の働きを感じ取らせる活動が見られる箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるように留意する。 ・児童の発達段階や学習の系統性等を踏まえて、低学年では曲や演奏の楽しさ、中学年及び高学年では曲や演奏のよさなどとし、曲や演奏のよさなどを見いだしていくことが質的に高まっていること。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな演奏形態による教材数 ・聴き取ったことや感じ取ったことを様々な方法で伝えたり意見交換したりするなど、言語活動の充実にかかわる教材・学習活動が設定されている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階に応じて、低学年では「楽しく」、中学年では「進んで」、高学年では「主体的に」、音楽への関わりが質的に高まっていること。 ・音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら、友達と音楽表現をしたり音楽を味わって聴いたりする楽しさや、様々な音楽に親しむことができるよう留意する。

調査方法

種目名【 音楽 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none">・発達段階（低=リズム、中=旋律、高=音の重なりや和声）に適した学習活動が設定されている箇所数について調査を行う。・表現の技能を高めるための記述の箇所数について調査を行う。 例) 曲想や活動のイメージ図・イメージ写真や挿絵の箇所
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none">・楽譜の理解を高める工夫が見られる記述の箇所数について調査を行う。 例) 音楽用語や記号についての説明や資料の箇所・リズム、強弱、形式などの音楽を形づくっている要素の働きを感じ取らせる活動が見られる箇所数について調査を行う。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none">・いろいろな演奏形態による教材数について調査を行う。 例) 声楽・合唱・オーケストラ・和楽器など・聴き取ったことや感じ取ったことを様々な方法で伝えたり意見交換したりするなど、言語活動の充実にかかわる教材・学習活動が設定されている箇所数について調査を行う。 例) 「聴いて感じたことを話し合おう」等の記述がある教材の箇所

観点の内容

図画工作科 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色、組み合わせ、色の明るさ、動き、奥行き、バランスなどを捉える箇所数 ・材料や用具の取扱い、技法を紹介した箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える形や色などの造形的な視点について児童が自らの感覚や行為を通して理解できるように留意する。 ・材料や用具の特徴を生かしながら、材料を用いたり用具を使ったりし、自分の思いを基に表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるよう留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の活動において、児童が創造的に発想や構想をしている箇所数 ・感じたこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理するなど、言語活動の充実に関わる学習活動が設定されている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、自分にとって新しいものやことをつくりだすように発想や構想をし、作品をつくったり見たりするときに、よさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深め、自分なりに対象や事象を味わうとともに、児童が自分なりに新しい見方や感じ方をつくりだせるように留意する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・総題材数 ・生活や社会の中の形や色などに関する箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・感性を働かせながら作品などをつくったり見たりすることそのものが、児童によって喜びであり、楽しみであることに留意する。 ・一人一人の児童が、形や色などに能動的に関わり、夢や願いをもち、心楽しく豊かな生活を自らつくりだせるよう留意する。

調査方法

種目名【 図画工作 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色、組み合わせ、色の明るさ、動き、奥行き、バランスなどを捉える箇所については、図示や説明を加えたり、比較したりするなど、明確な意識付けが図られていたり、それらについて題材の中で触れているものについて調査を行う。 例) 形の柔らかさ、色の冷たさ、色の組み合わせによる優しい感じ、面と面の重なりから生まれる前後の感じ、色の明るさなどについての記載。 ・材料や用具の取扱い、技法を紹介した箇所については、1種類の材料や用具技法の手順について示されているものについて調査を行う。題材の中で簡単に触れているものも含む。 例) 各学年で取り扱う材料や用具の取扱い方を説明したり、技法を紹介したりしている。
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の活動において、児童が創造的に発想や構想をしている場面において発言（吹き出し）とともに掲載されている箇所について調査を行う。 ・感じたことや考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったり、言葉で整理したりするなど、言語活動の充実に関わる学習活動が明確に設定されている箇所について調査を行う。
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総題材数は、各発行者が題材名としてあげているものについて調査を行う。 ・生活や社会の中の形や色などに関する箇所については、家庭、地域、社会で出会う形や色、作品、造形、美術などについて示されているものについて調査を行う。 例) ・食器、家具、衣服、用具、パッケージ、ポスター、伝統的な工芸品、建物など、児童を取り巻く生活の中にある様々な造形のこと

観点の内容

家庭科 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住の生活についての基礎的・基本的な理解に関わる学習活動の設定 ・調理や製作などの技能に関する内容を上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住の生活に必要な役割や働きに関する基礎的・基本的な理解について、調査や話し合い活動を取り入れ、児童が主体的に考えられるよう留意する。 ・「調理の基礎」「生活を豊かにするための布を用いた物の製作」の技能の定着を図るためには、必要な材料、用具、手順、時間等の見通しをもち、目的に応じた安全な取り扱いについて理解できるよう留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で活用するための教材や学習活動の設定 ・問題解決的な学習の一連の学習過程を上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家族・家庭生活についての課題と実践」において、衣食住の生活や消費生活・環境で学習した内容との関連を図り課題を設定し、実践的な活動を家庭で行うことができるよう留意する。 ・問題解決的な学習においては、解決方法を考えたり、計画を立てて評価・改善したりする際、他者との意見交換などを通して、多角的に検討できるよう留意する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児や高齢者など異なる世代の人々との関わりを通して、生活をよりよくしようと工夫する学習活動の設定 ・各教科等と関連をもたせた指導に関する内容や、道徳の内容と関連をもたせた指導が設定されている教材の数 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わりについて問題を見だし、その解決方法について話し合うことを通して、生活をよりよくするためにどのように工夫できるか考えることができるよう留意する。 ・各教科や道徳等の指導内容との関連を図るとともに、中学校家庭分野における学習を見据え、児童の日常生活とのつながりを重視し、家庭や地域における実践に結びつけることができるよう留意する。

調査方法

種目名【 家庭 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住の生活の「食事の役割」「栄養を考えた食事」「衣服の着用と手入れ」「快適な住まい方」に関する基礎的・基本的な知識の理解に関わる教材の数について調査を行う。 例) 栄養素のはたらき、用具の名称など ・「調理の基礎」「生活を豊かにするための布を用いた物の製作」の技能の定着を図る内容等について調査を行う。 例) 青菜のゆで方、手縫いの仕方など
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「家族・家庭生活についての課題と実践」において、衣食住の生活や消費生活・環境で学習した内容との関連を図り、課題を設定し、実践的な学習活動が設定されている教材の数について調査を行う。 例) 家庭で実践しよう、深めようなどの表記や、実践を促す教材数 ・児童が解決方法を考えたり、計画を立てて評価・改善したりする際、他者の意見を取り入れたり、計画どおりにできたかを振り返ったり改善方法を考えたりできるよう、書き込み部分の数や話し合い活動を具体的に設定した数について調査を行う。 例) 話し合おう、考えよう、振り返ろうなどの表記や、書き込める箇所の数
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わりについての問題を見いだしたり、生活をよりよくしようと工夫したりする学習活動が設定されている教材の数について調査を行う。 例) 家族と関わる際の課題や、実践の工夫が促されている箇所、 ・各教科や中学校の技術・家庭科(家庭分野)と関連をもたせている箇所、道徳の内容と関連づけて指導できる箇所の数について調査を行う。 例) 他教科や中学校で学ぶ内容、道徳の内容項目と関連がある箇所(データや解説、注釈も含む)の数

観点の内容

体育科 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「心の健康」及び「けがの防止」において、「技能」の内容を取り扱っている箇所数 ・運動領域との関連を重視する視点から、「健康な生活」、「体の発育・発達」、「病気の予防」において、運動に関する内容を取り扱っている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育や保健の見方・考え方を働かせることを通して、「各種の運動がもたらす体の健康への効果はもとより、心の健康も運動と密接に関連している」ことを実感できるようにし、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための知識及び技能を習得させることに留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な日常生活の体験や事例を題材にした話合いや、思考を促す資料を用いて健康に関する課題を解決する学習活動を取り上げている箇所数 ・実践的理解を促すために実験などを取り上げたり、コラム、写真や図、グラフ、表などを用いて解説したりしている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する課題に対応して、自己の健康を保持増進するために的確に思考し、判断するとともに、それらを表現することができるような資質・能力の育成を目指すことに留意する。 ・健康に関する課題を解決するなどの学習活動を取り入れ、知識を身に付ける指導に偏ることなく、自ら考えたり、判断したりしながら実践的に理解できるように留意する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康に関する取組や自己の健康の保持増進や回復のために主体的、協働的に活動するよさに気付くような事例や問の箇所数 ・身近な健康や心身の発育・発達などを肯定的に捉えられるような内容を取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康の大切さを認識し、健康の保持増進や回復等に主体的に取り組み、健康で豊かな生活を営む態度が身に付くように留意する。 ・現在及び将来にわたって健康で活力に満ちた楽しく明るい生活を営む態度が身に付くように留意する。

調査方法

種目名【 保健 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「心の健康」及び「けがの防止」において、「技能」の内容を取り扱っている箇所数について調査を行う。 例) ・問題やまとめ、吹き出しなどで、体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法など不安や悩みを抱えたときの対処法について記載している箇所 ・問題やまとめ、吹き出しなどで、すり傷、鼻出血、やけどや打撲などの簡単な手当について記載している箇所数について調査を行う。 ・運動領域との関連を重視する視点から、「健康な生活」、「体の発育・発達」、「病気の予防」において、運動に関する内容を取り扱っている箇所数について調査を行う。 例) 「運動は、骨や筋肉を丈夫にする効果があるよ。」「全身を使った運動は病気の予防にとって大切だよ。」など、吹き出しやコラム、専門家の話などで運動と健康の関連について記載している箇所
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な日常生活の体験や事例を題材にした話合いや、思考を促す資料を用いて健康に関する課題を解決する学習活動を取り上げている箇所数について調査を行う。 例) 「次の事故はなぜ起こったのでしょうか。」「かぜをひきやすい理由を説明しましょう。」など、学習したことを活用したり、日常生活体験から自分の考えを説明したりする活動が記載されている箇所 ・実践的理解を促すために実験などを取り上げたり、コラム、写真や図、グラフ、表などを用いて解説したりしている箇所数について調査を行う。 例) 「ぬれただっしめんで手をふいて、よごれが付いているかどうか、たしかめてみましょう。」など、問題に設定されているものや実験の写真や図、学校医など専門家の話で実践的理解を促す内容が記載されている箇所
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康に関する取組や自己の健康の保持増進や回復のために主体的、協働的に活動するよさに気付くような事例や問の箇所数について調査を行う。 例) 「病気の予防で学習したことを生かして、次のことについて考えてみましょう。」など問題に設定されているものや、「学習のまとめ」コーナー等で学んだことを活用している事例を紹介している箇所 ・身近な健康や心身の発育・発達などを肯定的に捉えられるような内容を取り上げている箇所数について調査を行う。 例) 思春期に起こる体の変化など、吹き出しや専門家の話等で自分の体の変化を肯定的に捉えられるような内容が記載されている箇所

観点の内容

外国語科 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「話すこと [やりとり]」「話すこと [発表]」の技能別 (領域別) の活動の箇所数 ・十分に音声に慣れ親しませた上で「読むこと」「書くこと」に慣れ親しむ活動の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能の基礎的なものを身に付けることができるよう留意する。 ・十分に音声で慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現について、発達の段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を加え、文構造の理解など、言葉の仕組みの理解を促す指導をすることに留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な課題が設定された言語活動の箇所数 ・言語の使用場面が設定された言語活動の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な課題等を設定し、目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えを形成したり、推測しながら読んだり語順を意識しながら書いたりして、コミュニケーションを行い、自分の考えや気持ちを伝え合うことができるよう留意する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組むことができるような段階的な言語活動の設定がされた箇所数 ・様々な言語そのものへの理解や言語の背景にある文化についての題材が設定された箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味を持って取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手立てを通して児童の主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した指導をすることに留意する。 ・英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、児童の発達段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げることに留意する。

調査方法

種目名【 外国語 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「話すこと [やりとり]」「話すこと [発表]」の技能別（領域別）活動の数について調査を行う。 例) Let's ListenやLet's talk等の技能別（領域別）の活動の数 ・十分に音声に慣れ親しませた上で「読むこと」「書くこと」に慣れ親しむ活動の数について調査を行う。 例) He/Sheを使った人物紹介について十分に音声で聞いたり話したりした後、自分が紹介したい人物について、He/Sheを書き写して人物紹介カードをつくる活動等。
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な課題が設定された言語活動の数について調査を行う。 例) 夢の時間割をつくり、みんなに紹介をする活動等 ・「児童の身近な暮らしに関わる場面」と「特有の表現がよく使われる場面」の言語の使用場面について調査を行う。 例) 家庭での生活、学校での学習や活動、地域の行事、挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内、旅行等の使用場面の種類の数
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味・関心を高められるよう、言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、言語活動における理解の助けとなるような視覚資料等の設定をしたり、他教科等と関連付けたりしている箇所の数について調査を行う。 例) 行きたい国を友だちとやり取りした後、海外旅行のパンフレットを模した紙面を見ながら、行きたい国の有名な食べ物やおすすめの季節を学級で紹介する活動等 ・「多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てる題材」「我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高める題材」「広い視野から国際理解を深め国際協調の精神を養い、かつ日本の文化や価値観、考え方などについての自覚を高める題材」の観点別の題材の数について調査を行う。 例) 日本の学校生活と様々な国の学校生活について、情報を得る活動等

観点の内容

道徳科 目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値の理解に関わる学習活動の設定 ・現代的な課題に関する内容等多様な教材の取扱 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き、価値理解と同様に人間理解や他者理解を深めていくよう留意する。 ・生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、児童が問題意識をもって学ぶことができるように留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・物事を多面的・多角的に考えるための教材や学習活動 ・多様な考え方を生かすための言語活動の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・物事を一面的に捉えるのではなく、児童自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができよう留意する。 ・児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの言語活動を充実させることに留意する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・自らを振り返り、成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりする学習活動の設定 ・各教科等と関連をもたせた指導、日常生活における実践との関連に関する内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう留意する。 ・各教科等と道徳科の指導のねらいが同じ方向であるとき、学習の時期を考慮したり、相互に関連を図ったりして指導を進めると、指導の効果を一層高めることができる。その際、各教科等と道徳科それぞれの特徴が生かされた関連となるよう留意する。

調査方法

種目名【 道徳 】

観点	調査した内容・項目についての説明
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none">・読み物教材以外の、道徳的価値の理解を深める教材の数について調査を行う。 例) コラム、先人の名言等を取り上げている箇所 <ul style="list-style-type: none">・生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応(情報モラル)等の現代的な課題などに関する内容等について調査を行う。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none">・物事を多面的・多角的に考えるための学習活動に資する教材の数について調査を行う。 例) 友達のいいところ見つけ等、多様な考え方が生まれる活動の設定 <ul style="list-style-type: none">・多様な考え方を生かすための言語活動について、書き込み部分の数や話し合い活動を具体的に設定した数について調査を行う。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none">・自らを振り返り、成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりする学習活動が設定されている教材の数について調査を行う。・道徳科と各教科等との関連を持たせた指導、日常生活における実践につなげることができるような設定がなされている教材の数について調査を行う。